

君はるか

こせきゆうじ きんこ
— 古関裕而と金子の恋 —

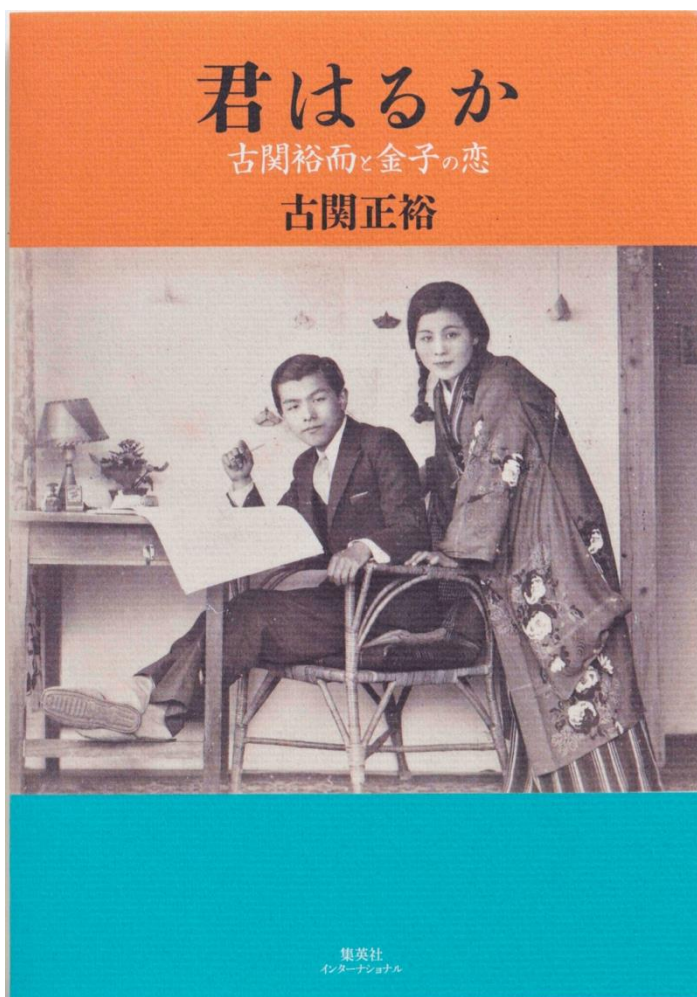
2020年2月26日発売！

古関正裕 著

連続テレビ小説『エール』

主人公のモデルとなった

作曲家・古関裕而と妻・金子



国民的作曲家・古関裕而と妻の金子は、文通のみで情熱的な恋をし、ひとたび会うなり結婚！生涯添い遂げた。この小説は、両親が残した往復書簡を元に、長男の正裕氏が綴った、美しい愛の物語で

【古関正裕・プロフィール】

1946年古関裕而・金子夫妻の長男として東京都で生まれる。成城学園初等科入学。ピアノを習い始める。成城学園高等学校在学中には友人に誘われカントリー・バンドに参加しバンド活動に熱中。65年早稲田大学理工学部に入學。70年日本経済新聞社に入社。98年に早期退職後、ピアノを再び習い、バンドなどの音楽活動を開始。2013年父親・古関裕而の楽曲を中心にライブ・ユニット「喜多三」を結成しライブ活動をしている。なお2009年古関裕而生誕百年記念CD全集の企画・監修で日

定価：本体 1600 円+税
体裁：四六判ソフト / 240 ページ
発行：集英社インターナショナル
発売：集英社
ISBN：978-4-7976-7376-0



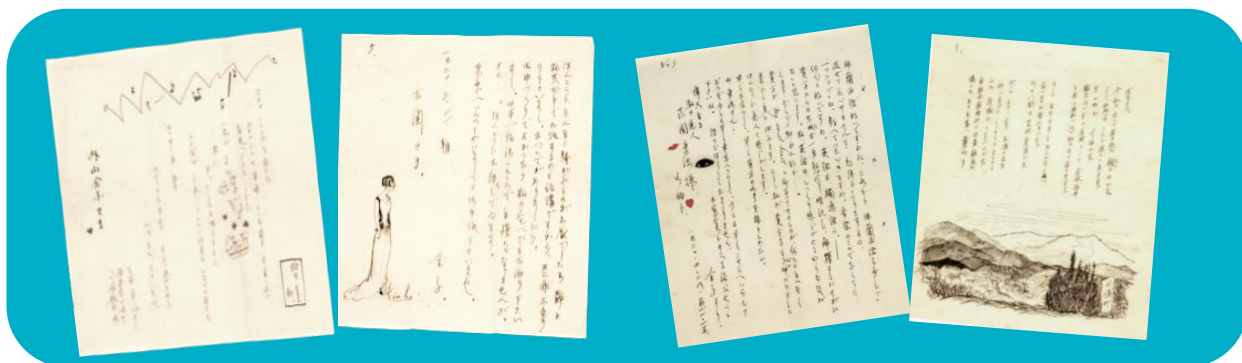
←新婚時代の古関裕而と金子夫妻。
↑仲睦まじいふたり。↘古関裕而
と、愛犬を抱きハモンドオルガンを
弾く長男の正裕。→美しい手書きの



あなたは、この小説の主人公・古関裕而を知っていますか？

古関裕而（こせき・ゆうじ）は1909年福島県生まれの、昭和日本を代表する国民的作曲家。独学で作曲を学んだ努力家で、その80年の生涯で、残した楽曲は5000曲とも言われている。代表曲は、東京五輪の「オリンピック・マーチ」、今でも毎夏演奏される、全国高等学校野球大会の歌「栄冠は君に輝く」、阪神タイガースの歌「六甲おろし」、巨人軍の歌「闘魂こめて」。「高原列車は行く」「君の名は」「長崎の鐘」「鐘の鳴る丘」「モスラ

文通だけで大恋愛！そして結婚したふたり。



↑古関裕而、内山金子の愛の書簡。（一部）

著者でふたりの長男の古関正裕氏は、この作品を書きたいと思ったわけを次のように語っている。

「私が父のことを本に書こうと思ったのは、父の偉大さを喧伝しようと思ったからではない。父も普通の若者とと同じく青春を過ごしていた。そして音楽に熱中し、母と文通し恋に落ちた。それも大恋愛であった。20歳の青年と18歳の乙女が、約4ヶ月の文通のみの交際で真剣に結婚まで考え、そして初めて会ったそのとき直ちに結婚した。父と母が互いに交わした手紙は、優に百数十通にのぼると推定されるが、その内40通余りが今も私の手許に残っている。その手紙を読むと、熱中していた音楽の勉強と恋愛の狭間、理想と現実との乖離に悩む青年と乙女の姿が浮かび上がってきた。90年前も今も変わらない若者の悩みだ。そして交際が進むにつれて、友情はやがて恋心に、そして熱烈な恋愛へと発展していく。その心情は、ひしひしと私の胸の底を打つのだった」（プロローグより）

【本書のお問い合わせ先】

株式会社 集英社インターナショナル

電話：03-5211-2632

公式サイト <https://www.shueisha-int.co.jp>